

教員・授業・勉強・ 研究について

授業への関心..... 4

授業に興味ある学生は大学生活が充実！

授業に興味がある 学生学部・学科への満足度：91.9% 大学生生活の充実度：91.3%

授業出席率..... 6

学生の6割が出席率9割以上

学部高学年ほど出席率は低い

授業への出席率90%以上の割合

1年：78.1%、2年：60.5%、3年：49.3%、4年：40.6%

教員との対話..... 8

学部学生の4割・大学院学生の9割が教員と対話

教員と対話を「している」、「たまにしている」学部学生：42.5%、大学院学生：89.9%

授業の満足度..... 10

授業の満足度は高くないが向上傾向

満足できる授業の割合が「80～100%」

学部学生：7.9%（2008年度）→ 11.2%（2009年度）

大学院学生：27.4%（2008年度）→ 33.5%（2009年度）

授業選択の要素..... 12

授業は「講義内容」で選択

授業選択理由のベスト3

学部：「講義内容」、「曜日・時間帯」、「単位取得の難易」

大学院：「講義内容」、「指導教員」、「曜日・時間帯」

学問の有用性..... 14

学生の8割以上が勉強は将来役立つと考えている

勉強が将来役立つと「思う」「やや思う」学部学生：82.3%、大学院学生：91.4%

留学への不安要素..... 16

留学費用と外国生活に不安

留学への不安要素「留学費用」：55.7%、「外国での生活」：31.5%





授業に興味ある学生は 大学生活が充実！

授業への関心

POINT

授業に興味がある学生

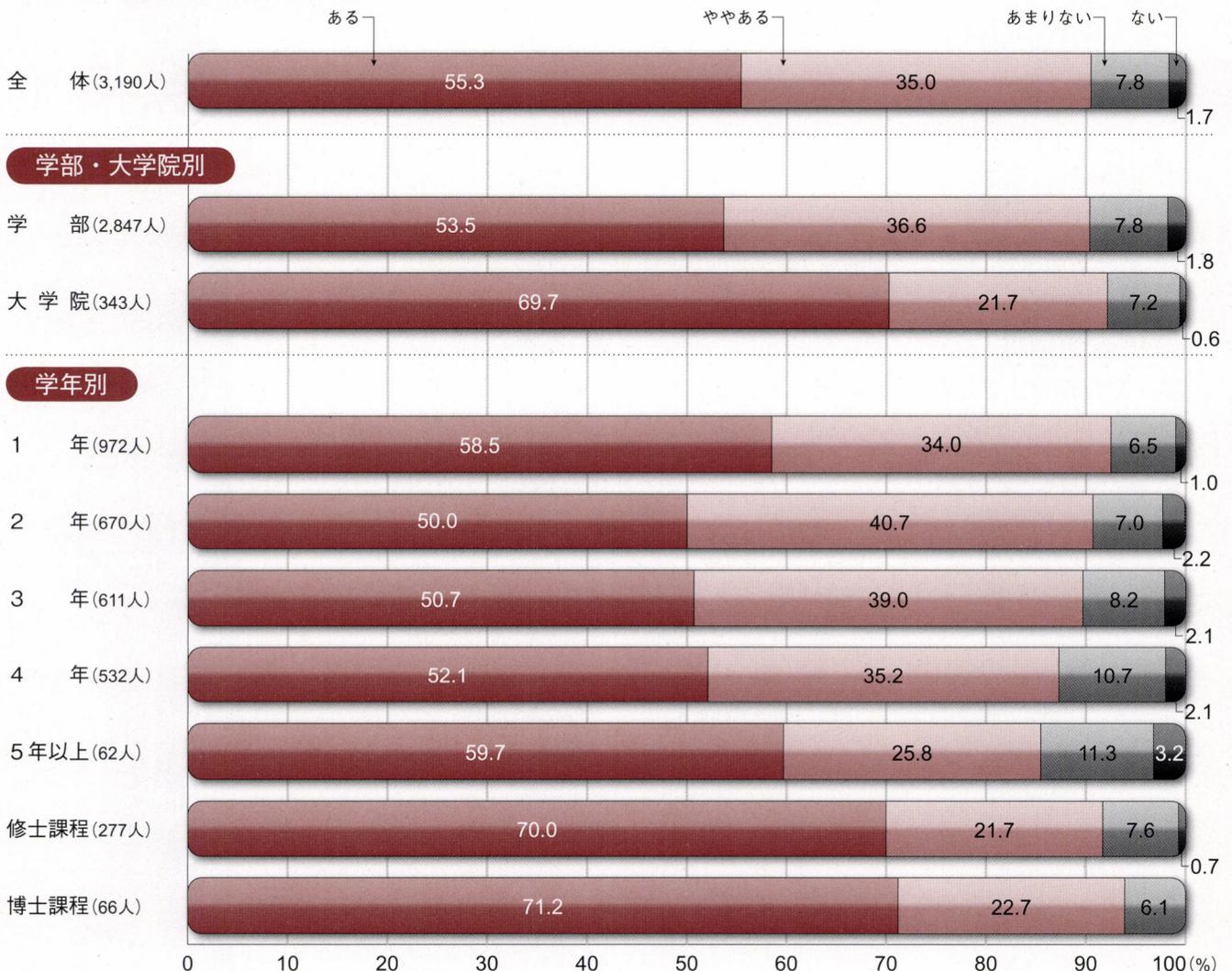
学部・学科への満足度：**91.9%**、大学生活の充実度：**91.3%**

9割の学生が授業に興味がある、「ややある」と回答しています。男女別では男性（88.3%）に比べて女性（93.4%）で高い傾向にあり、学部学生（90.1%）と一般大学院学生（修士課程と博士課程：91.4%）では違いはみられません。

学年別では、1年生で授業に興味がある」と回答した学生は58.5%と高いですが、2年生（50.0%）で低下します。3年生（50.7%）、4年生（52.1%）で再び授業に興味を持ち始め、大学院に進学すると授業に高い関心を示していま

す（修士課程：70.0%、博士課程：71.2%）。これはここ数年変わらない傾向です。2年生で授業に興味がある」と回答した学生は2007年度が50.7%、2008年度が44.0%、2009年度が50.0%であり、昨年度ほどではないものの2年生で授業に対する興味が薄れる傾向にあります。学部所属箇所別では、授業に興味がある」と回答した学生は文系学部で高く（文化構想学部：63.6%、法学部：60.8%）、理系学部で低い傾向にあるようです（先進理工学部：43.0%、基幹理工学部：44.0%）。

大学の授業に興味がありますか？



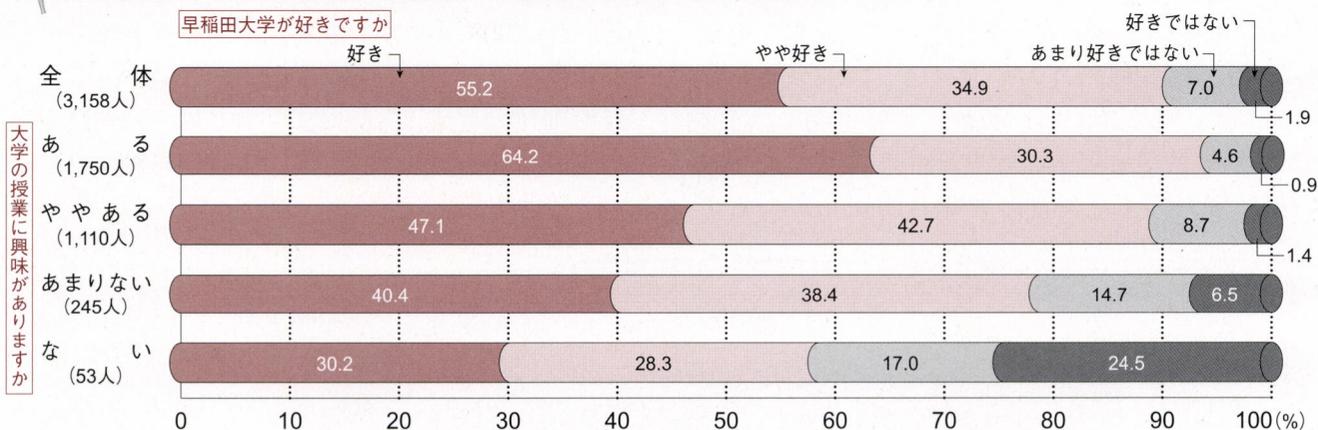
授業への関心が高い学生ほど、「教育研究内容・レベル」を理由に入学してきた割合が高く（授業に興味がある：45.7%、「ややある」：27.6%、「あまりない」：20.5%、「ない」：17.0%）、早稲田に愛着を感じています。また、授業への関心が高い学生ほど、所属学科・研究科への満足度および大学生活の充実度も高く、将来自分の進路先で役に立つと考えています。

授業への関心が薄れる要因は定かではありませんが、記述回答に「興味のある授業が科目登録の

選外になった」、「教員に熱意が感じられない」、「教員の遅刻が多い」といった声が少なからずあります。「教育研究内容・レベル」に期待して入学してきた学生が興味ある授業がとれるようなシステムをつくること、また、教員が熱意をもって充実した授業を提供することが、学生の授業に対する興味を持続させることにつながるようです。このことが、学生が勉学に励み、充実した大学生活を送り、早稲田への愛校心を育むことにつながるのではないのでしょうか。

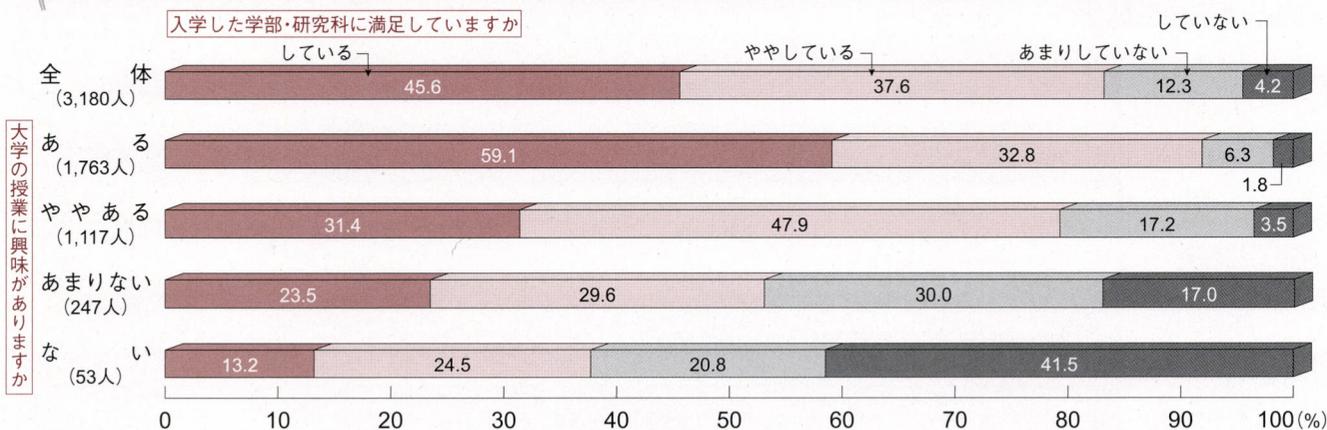
クロス集計

大学の授業に興味がありますか？／凡例 早稲田大学が好きですか？



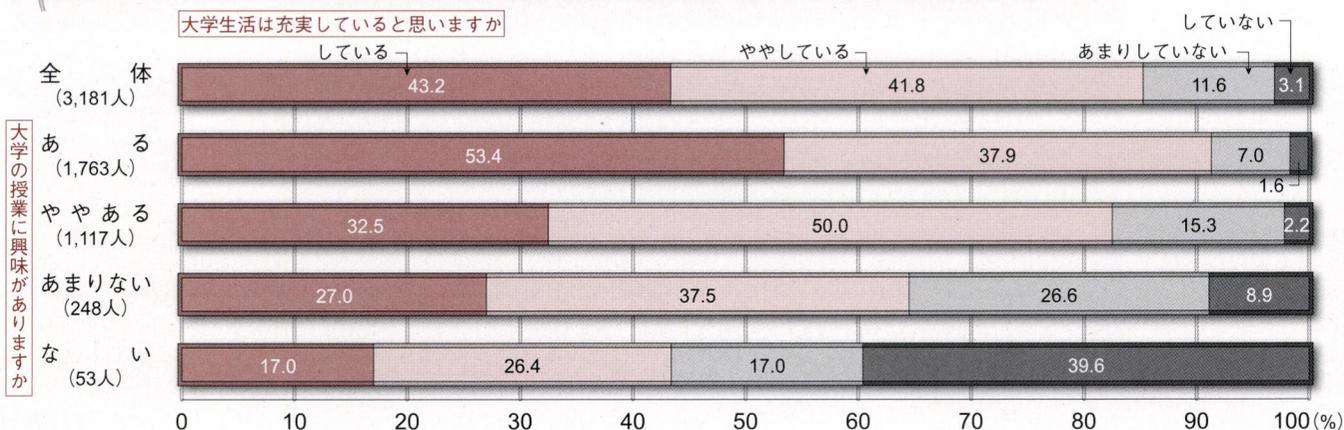
クロス集計

大学の授業に興味がありますか？／凡例 入学した学部・研究科に満足していますか？



クロス集計

大学の授業に興味がありますか？／凡例 大学生生活は充実していると思いますか？





学生の6割が出席率9割以上 学部高学年ほど出席率は低い

授業出席率



授業への出席率90%以上の割合

1年: **78.1%**、2年: **60.5%**、3年: **49.3%**、4年: **40.6%**

出席率が90%以上の学生は2007年度（61.5%）、2008年度（56.9%）、2009年度（60.9%）であり、2008年度に低下がみられましたが、2009年度にはほぼ持ち直しています。学部学生では学年が上がるほど出席率が低下していますが、これは毎年の傾向です。男女別では、男性（出席率90%以上：57.1%）に比べて女性（出席率90%以上：66.1%）の出席率が高く、授業の興味と関係しているよ

うです。学部所属箇所別では、理系学部で出席率が高く（90%以上出席率の学生 創造理工学部：80.7%、先進理工学部：77.2%）、文系学部で低い傾向にあります（90%以上出席率の学生 社会科学部：44.1%、政治経済学部：50.3%）。入学形態別では推薦入試で高く（71.9%）、一般入試（58.6%）と付属校進学（57.0%）は同程度です。

あなたのこれまでの授業平均出席率はどれくらいですか？



出席理由のベスト3は「講義内容に関心」(81.6%)、「出席をとる」(56.5%)、「専門・研究に役立つ」(50.0%)です。出席率が低い理由は様々ですが、「講義内容に関心がない」(43.4%)と「授業の進め方がよくない」(36.7%)が主な理由になっています。当然のことながら、授業に関心の高い学生は出席率が高く、授業に関心度の低い学生は出席率が低い傾向にあります。出席率50%未満の学生のうち、授業に興味がある「ある」学生が34.0%を占めており、授業に関心があるにもかかわらず出席率が低い学生がいるようです。こ

のような学生は興味のある授業と、そうでない授業で出席率が極端に異なる可能性があります。

2年次には授業への関心が薄れ(前項)、授業への出席率も低下しがちですが、この時期に授業の出席率が低下すると留年や退学の確率が高まります。授業の出席率を高めるには授業への関心を喚起することが有効と思われますので、魅力的な授業を増やすなどのカリキュラムの見直し、教員が学生を惹き付ける授業を行う工夫をすることが必要となるでしょう。

コラム

関心のある分野をさらに学びたい 充実した早稲田のプログラム

● オープン科目、テーマカレッジ、テーマスタディ

所属する学部にかかわらず、すべての学生が履修することができる科目群として「オープン科目」を設置。学問領域を越えて関心が高いと思われる科目や他学部生に聴講してほしい特徴のある科目を各学部や各センターが相互に開放しています。

本学平山郁夫記念ボランティアセンターとの提携等による「海外実習科目」や社会とのつながりを感じながら学ぶことのできる「寄附講座・社会連携講座」なども人気です。「自然科学科目」やスポーツ実習や健康衛生についての理論を学ぶ「保健体育科目」などもあり多彩な授業が受けられます。

そのほか、全学部1・2年生を中心としたテーマカレッジや自分の専門のほかに、もう一つ分野を学ぶ履修プログラムのテーマスタディ(全学共通副専攻)もあり、自分の興味のある科目を学ぶことが可能です。

オープン教育センター

【URL】 <http://open-waseda.jp>

早稲田ポータルオフィス(履修相談対応)

【URL】 <http://www.waseda.jp/wpo/>

● オンデマンド授業

インターネットに接続されたパソコンを通して、いつでもどこでも、何度でも受講可能なオンデマンド授業があります。詳細は、各学部・研究科の講義要項、オープン教育センターのWebサイトなどで確認し、トライしてみましょう!





学部学生の4割・大学院学生の9割が 教員と対話

教員との対話



教員と対話を「している」、「たまにしている」

学部学生: **42.5%**、大学院学生: **89.9%**

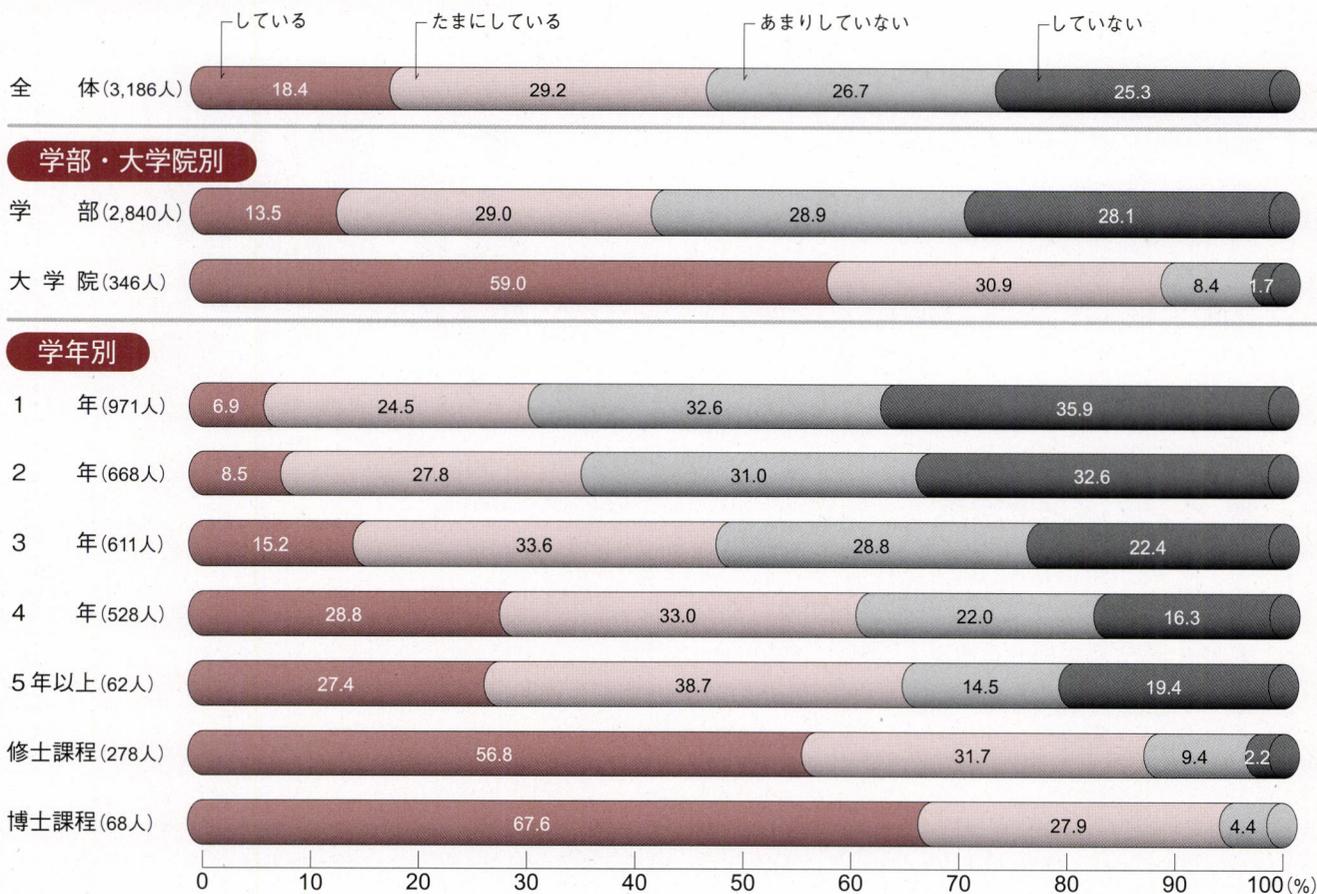
短時間でも教員と対話「している」、「たまにしている」と回答した学生は全体で47.6%です。男女別では男性が48.5%、女性が47.3%であり、男女差はみられません。学部学生では42.5%、大学院学生では89.9%であり、大学院学生では約2倍です。学年別では1年生で31.4%と低いです、高学年ほどこの割合は高くなります。

話をする教員を学年別にみると、1年生・2年生は「語学教員」と「講義の担当教員」の割合が高いですが、3年生から「演習・ゼミの教員」の割合が高くなり、4年生、大学院学生では「演習・ゼミの教員」の割合が8割を越えます。

授業に興味のある学生ほど、また、大学での授業・研究が将来の進路先で役立つと思う学生ほど

教員と対話しています。また、入学理由に「教授陣」、「教育研究内容・レベル」と回答した学生は教員とよく話をする傾向にあります。授業の出席率と教員との対話には相関はないようですが、比較的出席率の高い授業の理由として、「自分の専門・研究に役立つ」、「学生からの質問・相談に教員が丁寧」、「教員に熱意が感じられる」をあげている学生ほど、教員と対話しているようです。教員と対話「していない」学生が授業に出席するのは、「出席をとる」、「成績評価が厳しい」ことが理由のようです。教員と対話している学生ほど大学生生活が充実していると回答の割合が高く、入学した学部・研究科にも満足しています。

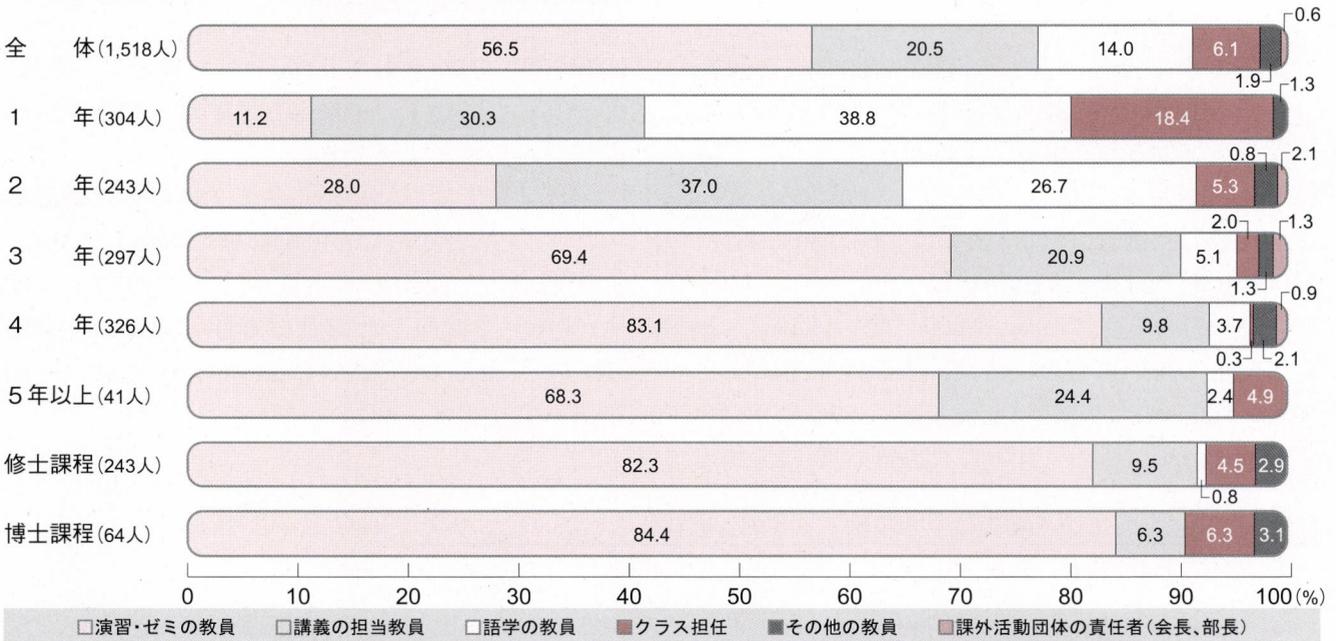
短時間でも教員と話をしていますか？



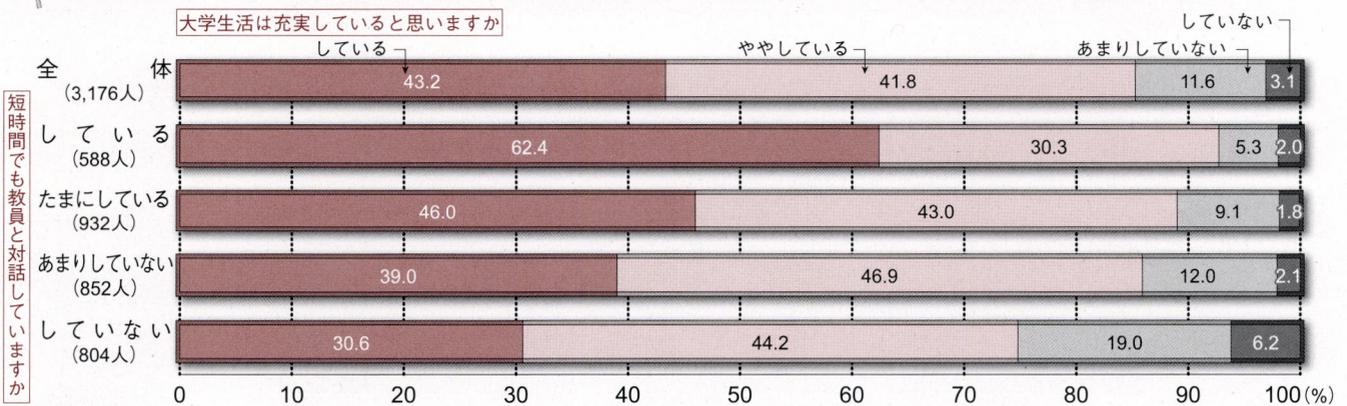
入学時から学びたい内容が明確にある学生は、授業への関心が高く、必然的に授業の出席率も高く、教員との対話も活発に行い、その結果として、入学した学部・研究科への満足度も高く、充実した大学生活を送れているようです。これは理想的なパターンですが、入学時から学びたい内容が明

確でない学生は相当数にのぼります。このような学生は教員と積極的に対話しないことから、教員が熱意をもって講義を行い、学生からの質問・相談に積極的に受けることが求められているのかもしれない。

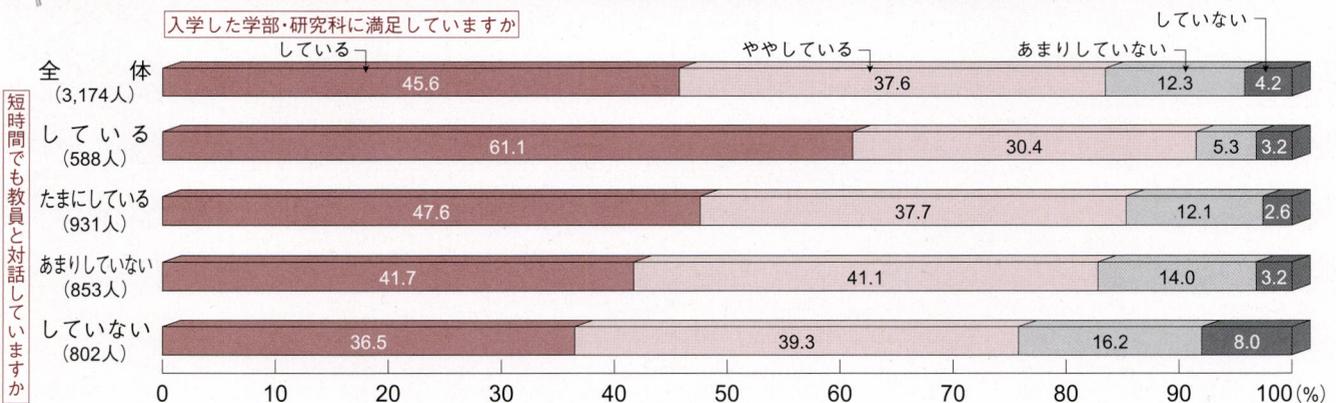
よく話をするのはどんな先生ですか？ 学年別



クロス集計 短時間でも教員と話をしていますか？ 凡例 大学生活は充実していると思いますか？

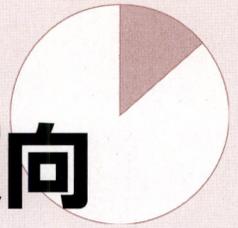


クロス集計 短時間でも教員と話をしていますか？ 凡例 入学した学部・研究科に満足していますか？





授業満足度は 高くないが向上傾向



授業の満足度



満足できる授業の割合が「80～100%」

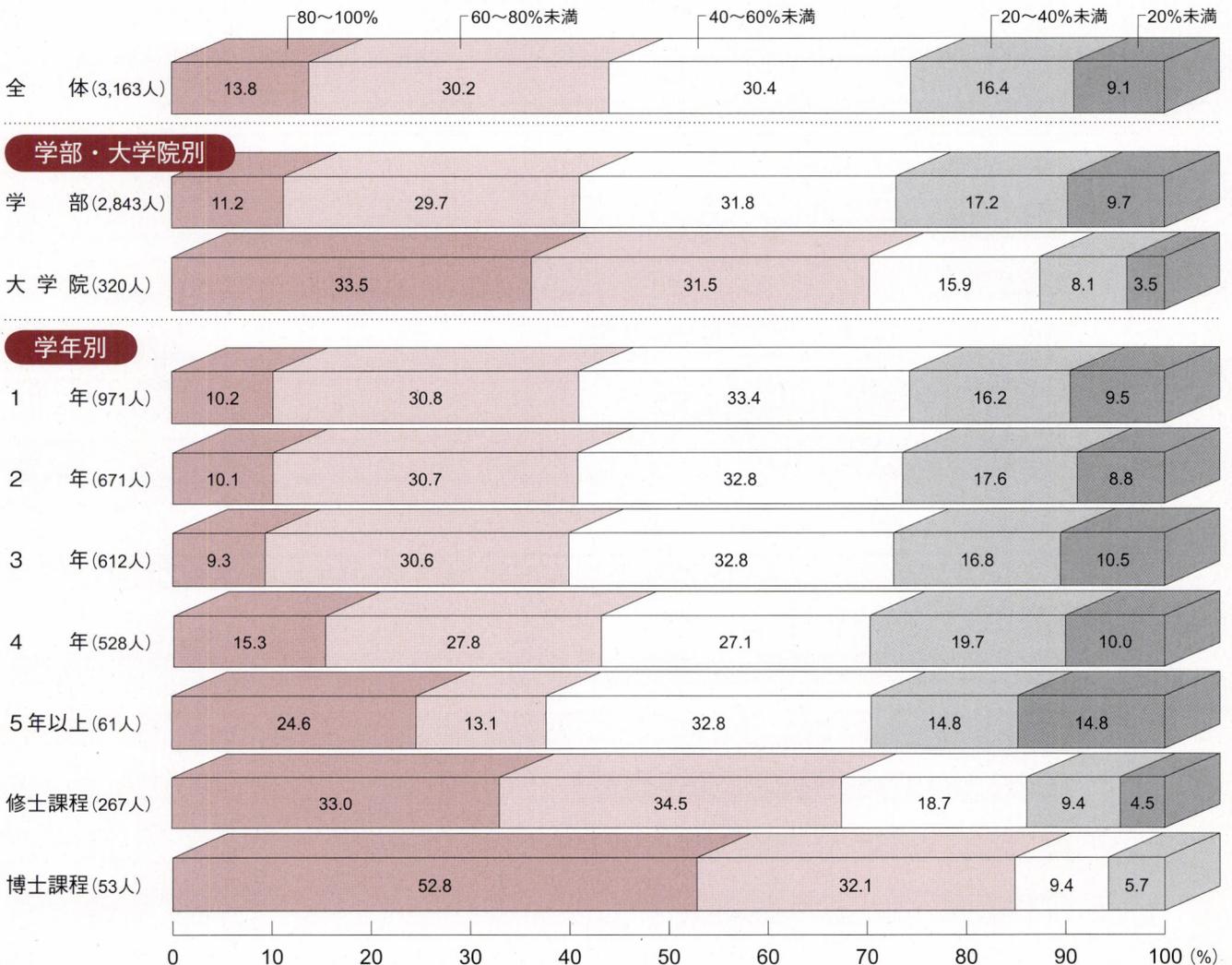
学部学生：**7.9%** (2008年度) → **11.2%** (2009年度)
大学院学生：**27.4%** (2008年度) → **33.5%** (2009年度)

満足できる授業の割合が「80～100%」と回答した学生は全体で13.8%、学部学生で11.2%、大学院学生で33.5%であり、学部学生に比べて大学院学生で満足度が高いようです。昨年度のデータと比較した場合、学部学生では「60～80%未満」(2008年度：24.2%、2009年度：29.7%)、「80～100%」(2008年度：7.9%、2009年度：11.2%)ともに向上していました。また、大学院学生に関しても、「60～80%未満」(2008年度：27.7%、2009年度：31.5%)、「80～100%」(2008年度：27.4%、

2009年度：33.5%)であり、向上しています。学部、大学院ともにわずかではありますが、授業改善の成果がみられるようです。

学部学生では1年から3年生までほぼ違いは認められず、文系と理系でも明瞭な違いはありません。男女別では、授業の満足度が「60～80%」、「80～100%」と回答した割合は男性(39.2%)、女性(50.3%)であり、男性に比べて女性で高い傾向にあるようです。

今あなたが取っている授業の中で満足するものはどれくらいありますか？



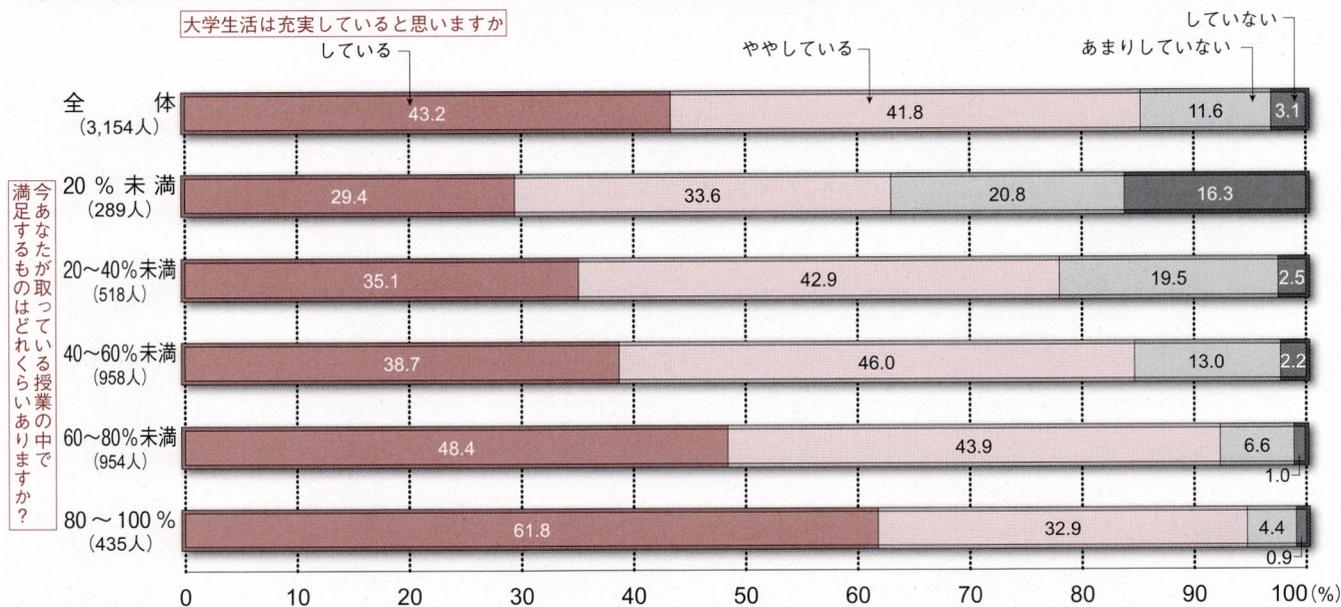
授業に満足していない理由のワースト3は、「授業の進め方がよくない」(55.3%)、「授業内容に関心がない」(50.5%)、「教員に熱意を感じられない」(33.9%)となっています。とくに、授業の出席率が高い学生(90~100%)では、授業に不満な理由として「授業の進め方がよくない」(64.5%)ことをあげています。

授業の満足度と授業への関心、授業への出席率には相関があり、授業への興味があると回答した学生ほど満足できる授業が多いと回答しています。また、満足できる授業の割合が高い学生ほど、教員とも対話をしており、入学した学部・学科へ

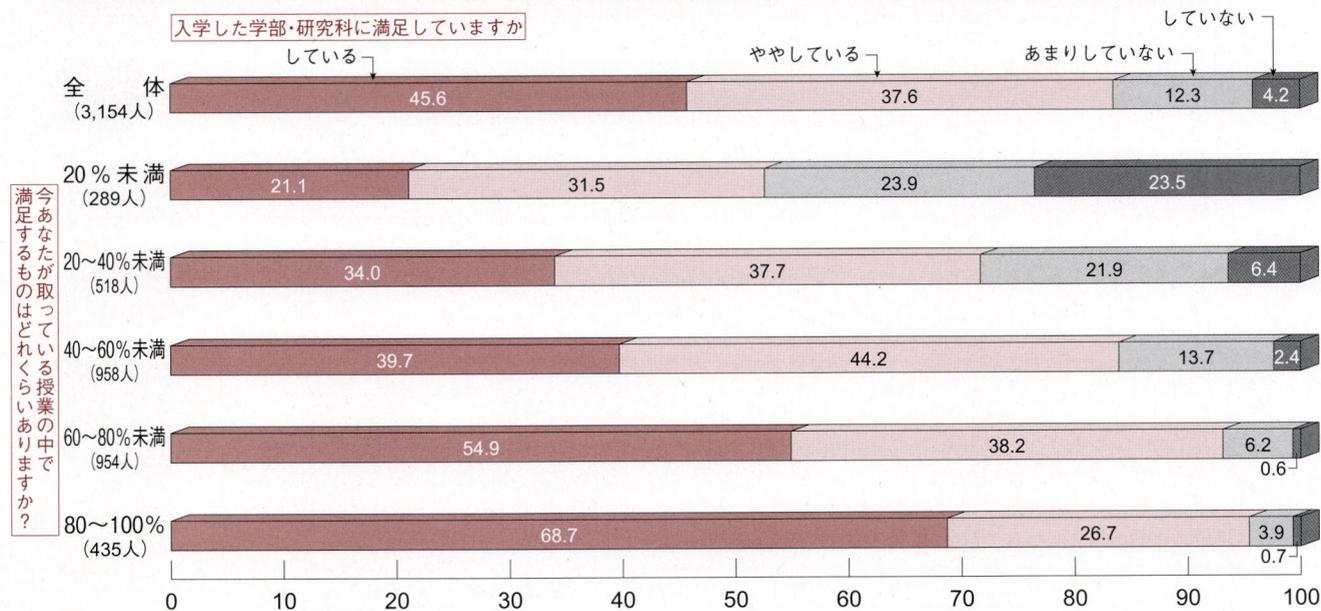
の満足度が高く、大学生生活も充実度しており、大学の授業・研究・勉強が将来の進路先に役立つと考えています。

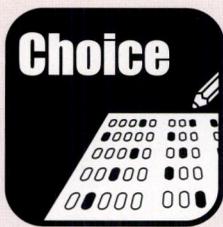
授業の満足度をさらに高めるには、引き続きシラバス作成、授業内容、授業の進め方について教員が工夫をしていくことが必要ですが、授業内容と学生の期待とのミスマッチを防ぐためには、学生は授業前にシラバスをじっくりと読むことが求められます。また、学生は受け身の姿勢ではなく、積極的に授業評価を行って建設的な意見を教員に伝え、教員は授業評価を有効活用して授業の改善を図ることが必要となるでしょう。

クロス集計 今あなたが取っている授業の中で満足するものはどれくらいありますか？
凡例 大学生生活は充実していると思いますか？



クロス集計 今あなたが取っている授業の中で満足するものはどれくらいありますか？
凡例 入学した学部・研究科に満足していますか？





授業は「講義内容」で選択

授業選択の要素

POINT

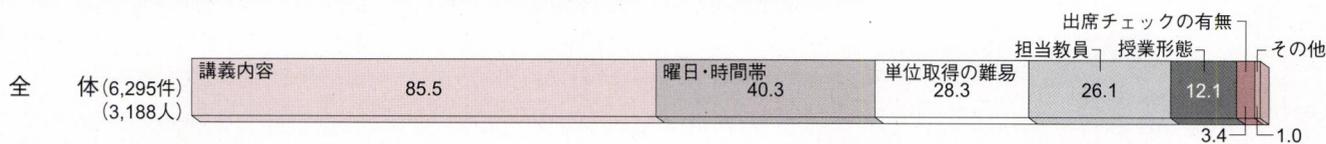
授業選択理由のベスト3

学部：「講義内容」、「曜日・時間帯」、「単位取得の難易」
 大学院：「講義内容」、「指導教員」、「曜日・時間帯」

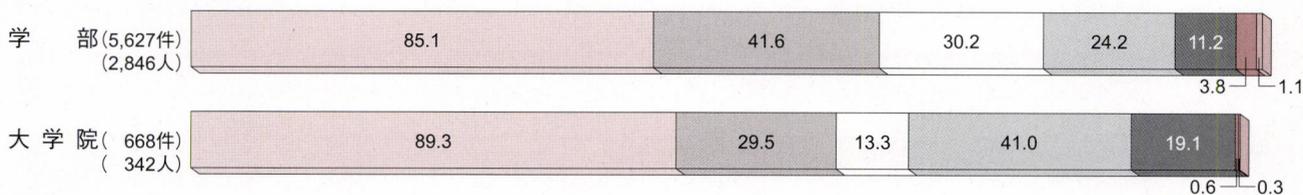
授業選択の際に重視する上位3要素としては、学部学生では「講義内容」(85.1%)、「曜日・時間帯」(41.6%)、「単位取得の難易」(30.2%)であり、学部学年別による違いはみられません。大学院学生では「講義内容」(89.3%)、「担当教員」

(41.0%)、「曜日・時間帯」(29.5%)であり、学部学生と異なり「担当教員」の割合が高くなります。いずれにしても、学部学生、大学院学生ともに授業選択の最重要基準は「講義内容」です。

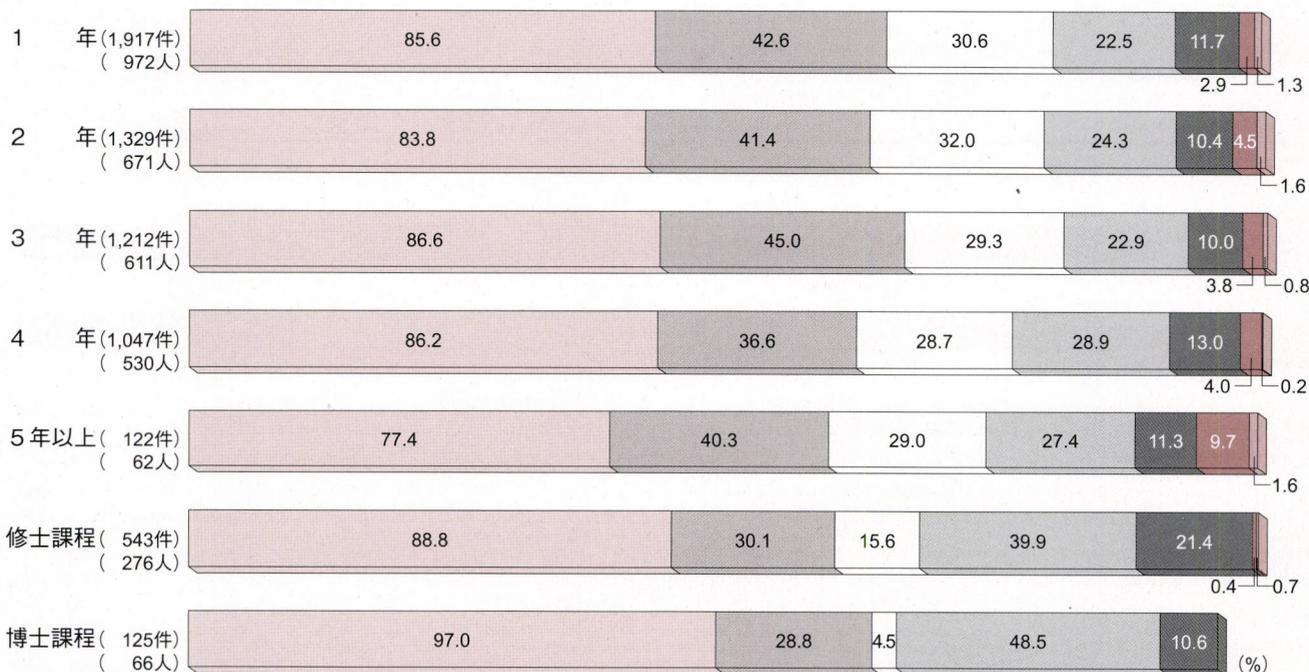
あなたが授業を選ぶ際に重要だと思う要素は何ですか？ [複数選択可]



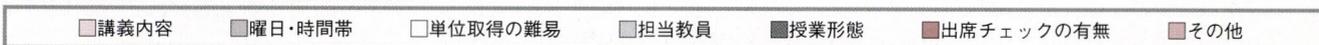
学部・大学院別



学年別



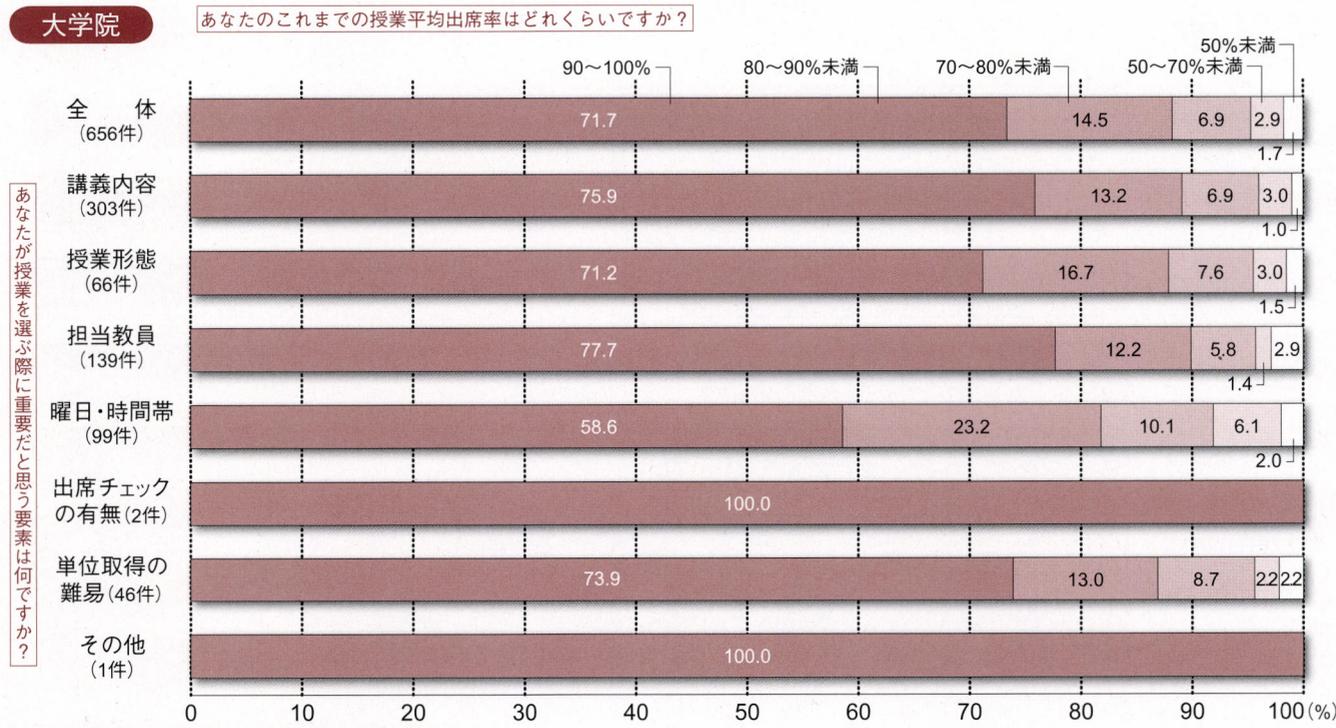
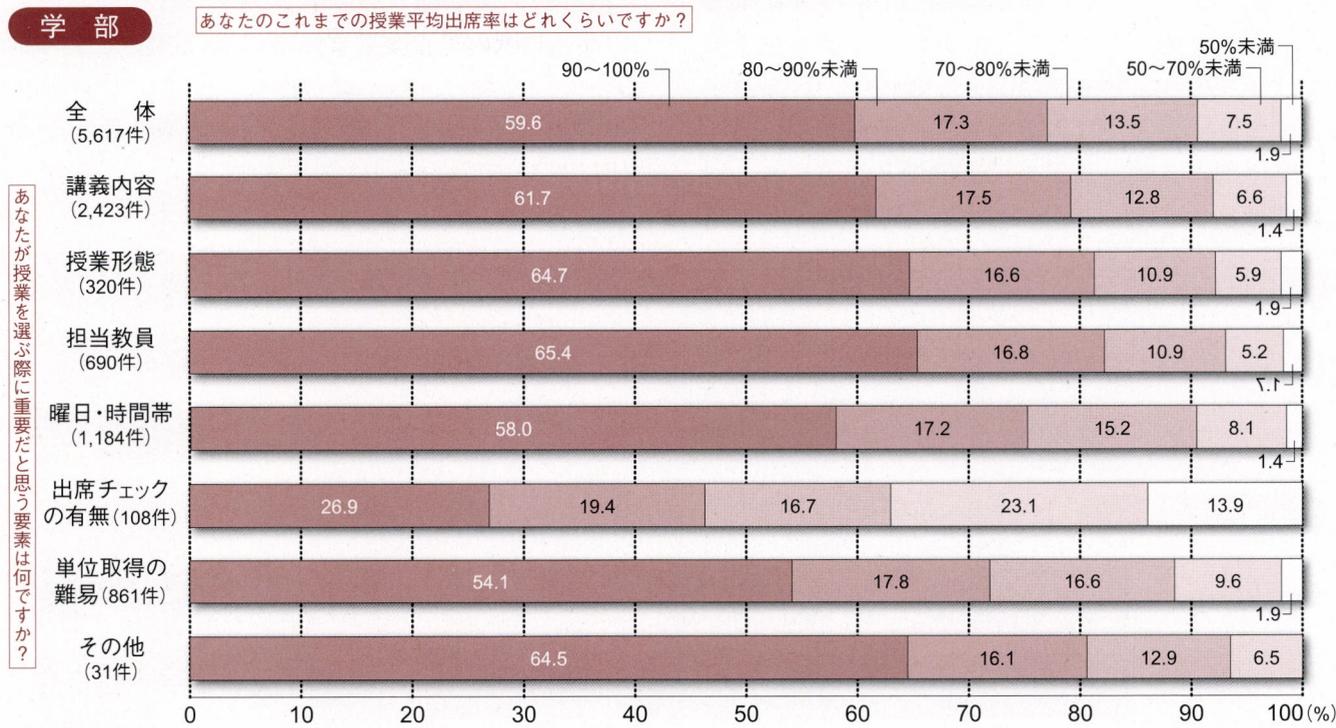
上段は複数回答の延べ数、下段は実際の回答者数



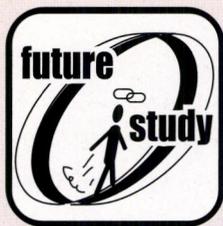
学部学生のうち、授業の選択基準として「講義内容」、「授業形態」、「担当教員」、「単位取得の難易」と回答した学生の6割前後は授業の出席率が90%以上ですが、「出席チェックの有無」と回答した学生では出席率70%未満の割合が約4割を占めています。「出席チェックの有無」を選択基準にあげる学生は、出欠をとらない授業を選択し、授業には出来るだけ出席しないで楽をして単位を取得しようという意図が見受けられます。このよ

うな学生は毎年の調査で1%弱を占めるようですが、入学当初から勉強する意志が希薄だったのか、入学後に勉強意欲をなくしてしまったのかを判断するためにはさらに調査が必要なようです。一方、大学院学生では「講義内容」、「授業形態」、「担当教員」、「単位取得の難易」と回答した学生の7割前後は授業の出席率が90%以上であり、「出席チェックの有無」を選択基準にする学生はほとんどいないようです。

クロス集計 あなたが授業を選ぶ際に重要だと思う要素は何ですか？ [複数回答可]
凡例 あなたのこれまでの授業平均出席率はどれくらいですか？



上段は複数回答の延べ数、下段は実際の回答者数



学生の8割以上が勉強は将来役立つと考えている

学問の有用性

POINT

勉強が将来役立つと「思う」「やや思う」

学部学生：**82.3%**、大学院学生：**91.4%**

大学での勉強が将来役立つと「思う」と回答した学生は全体で44.7%（「やや思う」を含めると83.6%）であり、この割合に男女差はみられません（男性：45.5%、女性：44.0%）。学部学生では42.3%、大学院学生では63.9%であり、学部学生と大学院学生とでは大きな開きがあります。

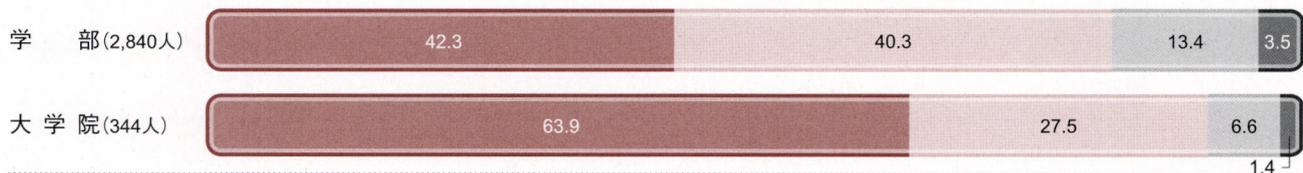
学年別みると、1年生で役立つと「思う」、「やや思う」と回答した割合がほぼ9割を占めます

が、高学年になるほどこの割合は低下して8割を下回ります。学部箇所別では、スポーツ科学部（58.8%）、法学部（52.2%）、理工学部（基幹理工学部：51.0%、創造理工学部：51.7%、先進理工学部：51.1%）で高く、政治経済学部（33.4%）、国際教養学部（36.3%）、社会科学部（36.9%）、文学部（37.0%）で低い傾向にあります。

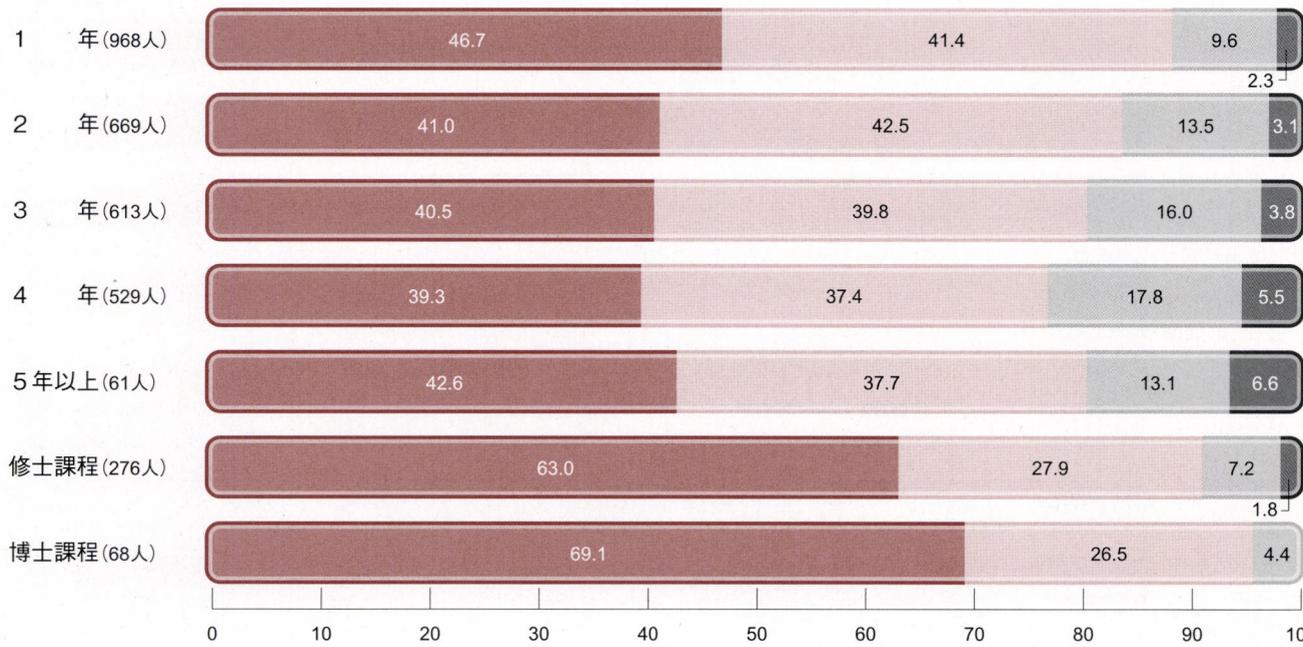
大学での授業や研究・勉強は、将来自分の進路先でなんらかの役に立つと思いますか？



学部・大学院別



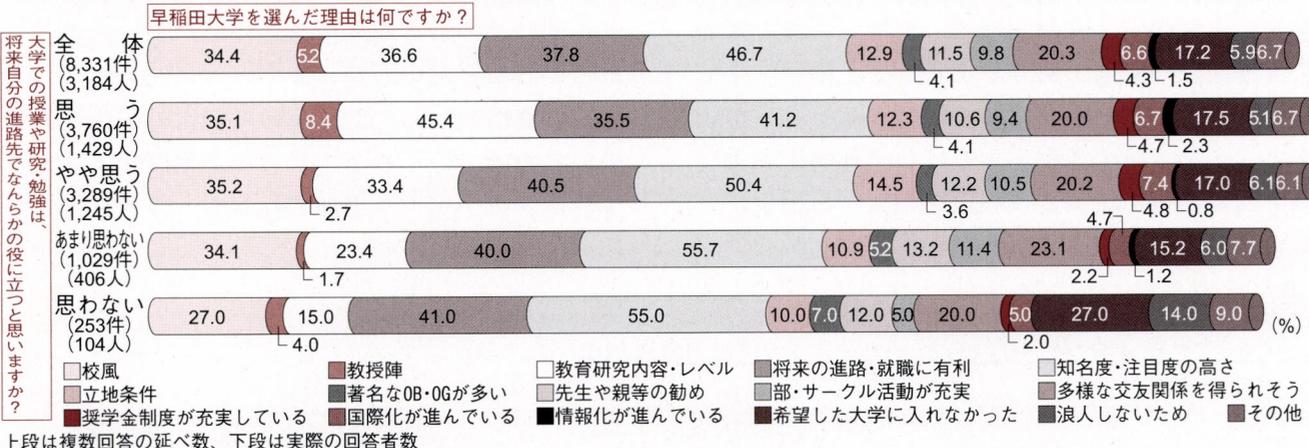
学年別



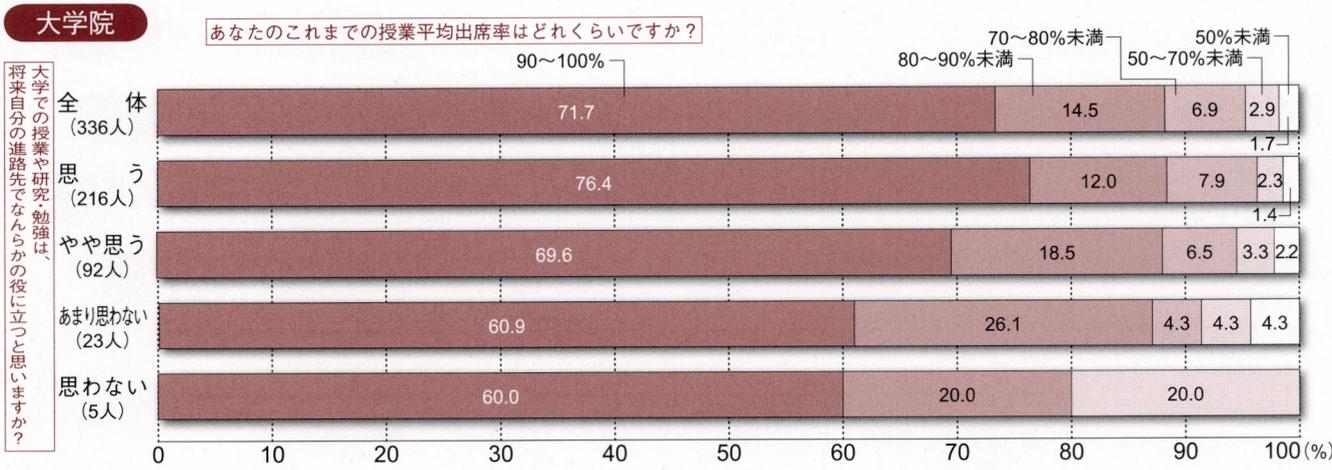
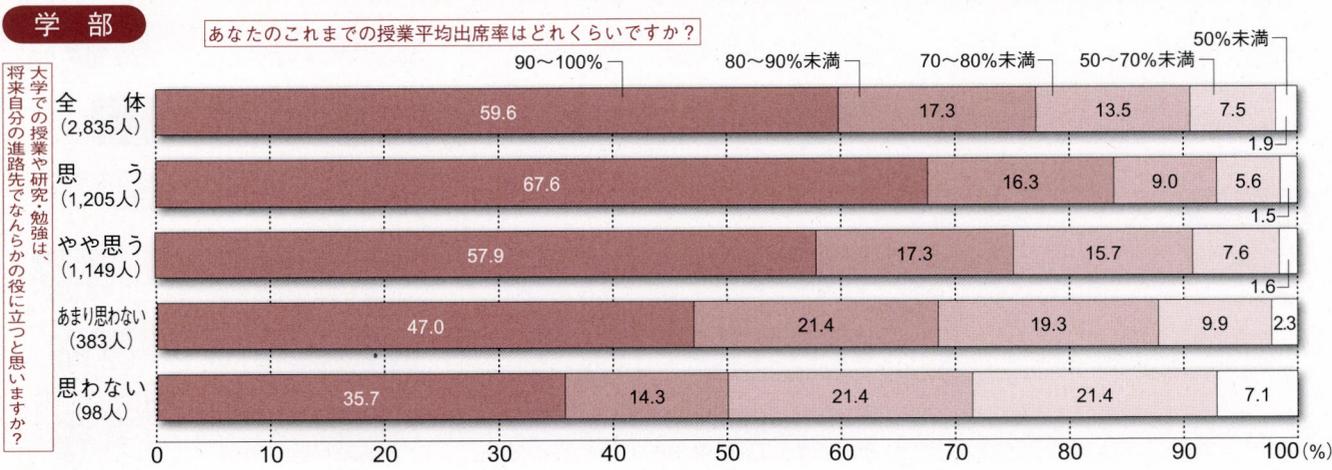
将来への有用性は授業への興味、授業への出席率、授業への満足度と相関があり、このような学生は入学した学科・研究科への満足度も高く、大学生活にも充実感を感じています。また、大学での勉強が将来役立つと考えている学生は、早稲田への入学理由として「教育研究内容レベル」を第一位に選んでおり（45.4%）、入学前から将来の進路が明確になっている学生に対して有益な授業

を提供できていることがうかがえます。一方、大学での勉強は将来役立たないと考えている学生の主な入学理由は「知名度・注目の高さ」（55.0%）であり、将来のビジョンを持たずに入学したためか、授業への関心も出席率も低い傾向にあります。このような学生の意識改革を図ることが今後の課題のようです。

クロス集計 大学での授業や研究・勉強は、将来自分の進路先でなんらかの役に立つと思いますか？
凡例 早稲田大学を選んだ理由は何ですか？ [複数回答可]



クロス集計 大学での授業や研究・勉強は、将来自分の進路先でなんらかの役に立つと思いますか？
凡例 あなたのこれまでの授業平均出席率はどれくらいですか？





留学費用と外国生活に不安

留学への不安要素

POINT

留学への不安要素

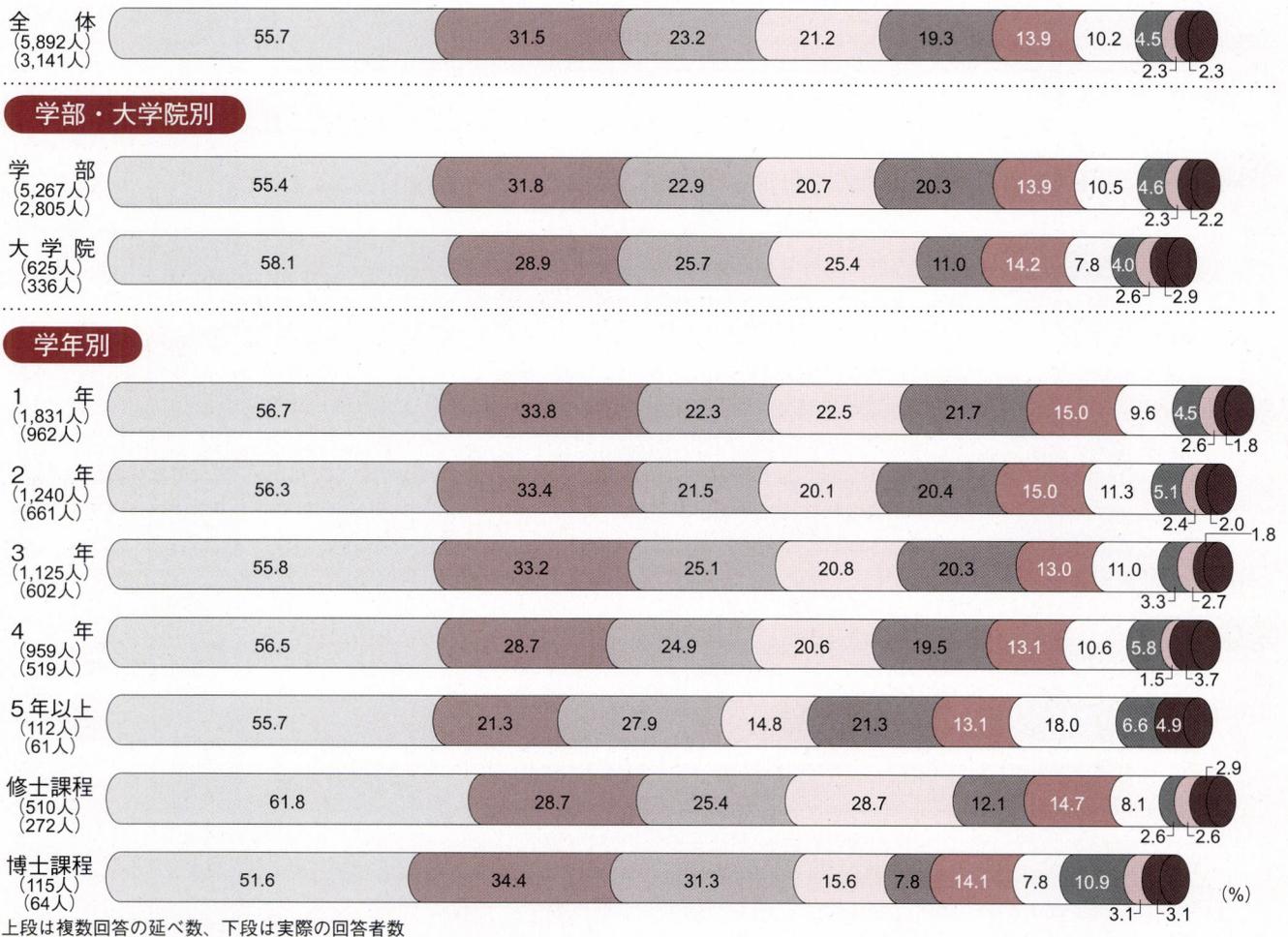
「留学費用」：**55.7%**、「外国での生活」：**31.5%**

留学に対して「留学費用」と「外国での生活」が主な不安要素になっています。これは学部・大学院、学部学年、文系・理系、男性・女性を問わずほぼ同様の傾向にあります。修士課程学生では「外国での勉強・研究」の割合が高くなっています。また、博士課程学生では、学部学生および修士課程学生に比べて「準備を相談する相手がない」の比率が高くなっています。修士課程学生

は現在の研究の延長線上に留学をとらえて外国での研究生活を考えはじめ、博士課程の学生はより具体的にどのような準備を進めたらよいのかと考えていることがうかがえます。

留学費用の補助・助成金の増額、外国生活面について相談にのるなどのサポート体制をより充実すれば、留学生数は増加するものと思われます。

もしあなたが留学するとすれば、留学について、以下に挙げる点で不安になる・躊躇する要素はありますか？ [複数選択可]



上段は複数回答の延べ数、下段は実際の回答者数

- 留学費用
- 外国での勉強・研究
- 留学に興味がない
- 外国での生活
- 留学先での取得単位の認定、留年
- 準備を相談する相手がない
- どの制度・受け入れ先があるのか知らない
- どちらが自分に有効か分からない
- その他
- 不安はない